

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回社会教育委員会議
開催日時	令和7年11月28日（金）午後3時10分～4時45分
開催場所	富岡まちづくりセンター ホール
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	（１） まちづくりセンター（公民館）視察後の意見交換 （２） 部活動の地域展開の状況 （３） その他
会 議 資 料	資料１－１：新所沢東まちづくりセンター公民館事業資料 資料１－２：公民館とまちづくりセンターの一元化についての意見書 資料２：部活動地域展開資料
担 当 部 課 名	教育長 岩間 健一 教育総務部長 池田 淳 教育総務部次長 三上 佳明 文化財保護担当参事 稲田 里織 所沢図書館担当参事 中村 まさみ スポーツ振興課 村川 裕昭  社会教育課 課長 奥井 祥三 社会教育課 主査 宮岡 さやか 社会教育課 主任 高橋 幸大 生涯学習推進センター 所長 藤巻 幸子  教育総務部社会教育課 電話 ０４（２９９８）９２４２

# 所沢市社会教育委員会議出欠一覧

令和7年11月28日(金)午後3時10分から 富岡まちづくりセンター ホール

選出根拠	氏 名	備 考	出欠席
学校教育 関係者	よしかわ えいいち 吉川 英一	所沢市立小中学校校長会 (向陽中学校校長)	
学校教育 関係者	いしみね ゆうだい 石嶺 雄大	所沢市幼児教育振興協議会 (美原幼稚園 園長)	
社会教育 関係者	かとう いちお 加藤 市男	所沢市公民館運営審議会 民生・児童委員	
社会教育 関係者	なんば ひろゆき 難波 裕之	所沢こどもルネサンス実行委員会	
社会教育 関係者	たけうち さとこ 竹内 聡子	所沢市スカウト協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団)	
社会教育・ 家庭教育 関係者	はりゅう きよみ 針生 清美	柳瀬小学校図書ボランティア代表、柳瀬公民館 保育スタッフ、柳瀬荘黄林閣(国重要文化財)管理人	
社会教育 関係者	おざわ さだやす 小沢 貞泰	(元)北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる学 校と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	
社会教育 関係者	こまつ ふみこ 小松 扶美子	所沢市連合婦人会 会長	
社会教育・ 家庭教育 関係者	やまむら あきこ 山村 顕子	所沢市PTA連合会 会長	×
社会教育・ 家庭教育 関係者	こばやし ひでこ 小林 ヒデ子	民生・児童委員 人権擁護委員	
社会教育 関係者	すどう とくこ 須藤 とく子	元市内小学校長	
学識経験者	せき ゆい こ 関 維子	秋草学園短期大学 准教授	
学識経験者	おおぎはら あつし 扇原 淳	早稲田大学人間科学学術院 教授	
学識経験者	せき なおき 関 直規	東洋大学文学部 教育学科教授	

選出根拠 = 所沢市社会教育委員条例第2条

令和7年7月9日現在

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>教育長</p> <p>議長</p>	<p>【1 開会】</p> <p>【2 あいさつ】</p> <p>《教育長・議長があいさつを行った後、議長の進行により協議に入った。》</p> <p>過日富岡まちづくりセンターで行われた富岡地区文化祭に足を運んだ。富岡まちづくりセンターは地域の関係機関とうまく連携し、創意工夫をしながら運営をしていると感じた。本日は視察を通じて皆様の感じた点やご意見をいただき、引き続き公民館事業について市長部局と連携を図っていきたい。</p> <p>また、本市では子どもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実できるよう、部活動地域展開に向けて検討を重ねているところである。部活動は大きな転換期を迎えており、どの自治体も試行錯誤して地域展開を進めているところであり、まずは本市の今の状況を委員の皆様に説明させていただく。</p> <p>例年、防災の日の9月1日にあわせて総合防災訓練が開催されていたが、今年はこの週末の11月30日に開催される。私が自治会の役員だった時には、毎年参加し、避難誘導訓練や情報収集伝達訓練をやっていた。毎年参加する中で、本当に災害が起こったときに、情報を集めること、避難をすることを市民の力でやってほしいというメッセージであることがわかった。</p> <p>この秋、社会教育関係のイベントで様々な人に接する機会があった。その際に「自分事として考える」というキーワードが挙がった。そこで、次回会議の宿題として、過去のこと、未来のことでも構わないので「自分事として〇〇を考えてどうなったか。」ということを考えていただきたい。例えば、先日の関東甲信越静社会教育研究大会で、「散歩道を歩いて草が生えているのが気になって、草むしりをした。これも社会教育ではないか。」と話があった。このようなことでもかまわないので、次回会議で発表していただきたい。</p> <p>《議事に入る前に、「会議録は、要約方式とし発言者の名前は記載せずに委員と表記すること」を確認した。》</p> <p>※傍聴者1名</p>

議長	<p>【３ 議事】</p> <p>(１) まちづくりセンター（公民館）視察後の意見交換</p> <p>本日午後２時に集合いただき、富岡まちづくりセンターの概要、事業、利用者説明会で話していることなどをセンター長に説明してもらい、その後、館内を見学した。皆様から感想はあるか。</p>
委員	<p>富岡まちづくりセンターの公民館事業で今年と去年の夏に、子どもを対象にした写真教室を担当した。近くの寺とおおたかの森に行き、子ども達は自分の一番撮りたいところを自分で決めて写真を撮った。教室の最後には、A4用紙に、上半分は子どもが撮った写真、下半分はカレンダーを印刷し、額に入れて渡した。今年と去年と連続で来ている子どももいた。写真教室の当日は、ボランティアが子どもたちと一緒に回ってくれた。ボランティアはスマホ教室のボランティアをきっかけに、写真教室にも協力してくれたようで、素晴らしいと感じた。先日の日曜日に所沢こどもルネサンスの音楽祭をミューズの大ホールで開催した。参加者は７５０人くらいで、スタッフが８０人くらい必要だったところ、中学生ボランティアを募集したら来てくれた。そういうボランティアを市でうまく活用できると良いと感じた。</p>
委員	<p>率直な感想として子どもも使いやすく、来たくなる仕組みとなっていると感じた。館内にあったＳＥＧＡのゲームは、子ども達も時間を決められていて、時間になったら並んでいる子どもと交代するということで、子どもたち同士がつながれる場になっていると感じた。図書館も子どもが一緒にいられるスペースとなっていた。公民館事業も色々な人がつながれるものであることを感じた。館内の随所に職員の頑張りが伝わるメッセージのようなものがある気がして、温かさを感じた。</p>
委員	<p>自然がいっぱいで窓もきれいで眺めると、ほっとする、心休まる場所がいっぱいあるのは富岡ならではの感覚を感じた。色々なアイデアが素晴らしいと思った。冬の学習室も用意されていて、受験に向かう子どもたちも利用しやすいと感じた。</p>
議長	<p>お気づきかわからないが、和室以外の各部屋にところワゴン、ところバスの時刻表があった。三芳町の上富付近から小手指駅北口の北中付近まで富岡地区であり、とても広い地域である。広域から人が行き来するということから、ところワゴン、ところバスが人々の足になっていることを気づいた。</p> <p>先ほどのセンター長からの説明を聞いて、富岡まちづくりセンターをもっ</p>

	<p>とアピールしてよいのではないかと思った。富岡シニアスマホ学園は以前の社会教育委員会議でも触れた。コロナ禍ワクチンの接種のときに、所沢市はLINEで予約を受け付けるようにした。その時に、80歳後半の父親が、一日中電話をして予約をしなければと思っていたが、5分10分でタブレットで予約ができた。当時、学生に講師になってもらい、シニアの人たちが受講生、職員が感染対策をする事業があればという話をしていて、こども未来部の子ども子育て会議でも話した。先ほど出てきたボランティアを募集するという取り組みは、まさにこの提案のことだと思い、それが形になっていて良かった。また、全国で最優秀賞をもらったということで、現場の頑張りを感じた。</p>
委員	<p>トイレに行ったら、トイレが和式から洋式になったということが書いてあった。こんなことが書いてあるまちづくりセンターは見たことがない。まちづくりセンターに来てほしいという職員の気持ちが表れていると思った。</p>
議長	<p>それでは、先日の新所沢東まちづくりセンター公民館事業の報告を委員よりいただきたい。</p>
委員	<p>11月12日に新所沢東まちづくりセンターのふれあいいきいきサロンに参加した。この事業は、高齢者や障害者が気楽に集まれる憩いの場ということで、毎月1回、原則第2火曜日に開催されている。当日は結構な人数が参加していて、職員もスタッフも参加者も全員が楽しんでいる様子で、とても良いサロンであった。情報発信もスタッフがすることはもちろんだが、全員が近況報告のようなことをして、全員が報告することを色々考えてきているようだった。前回、参加者が味噌に関する近況報告をしたようで、今回それを受けたスタッフからその味噌を食べてみたと報告があった。それぞれがこの1ヶ月で色々なことを調べて発信して、受け手も自分事として考えることを実証している。また今日も感じたが、なんといっても職員の方の熱量、来ていただきたい、利用していただきたいというおもてなしの心があると感じた。</p>
社会教育課	<p>職員の役割について補足する。今回の事業は、関係機関と連携した事業で、職員はこの事業の準備から実施まで、協力スタッフや地域包括支援センターなどの関係者同士をつなげ、参加者と参加者同士、参加者と関係者をつなげることを行っている。言い換えると地域のネットワークを作るコーディネーターとしての役割を担っている。</p> <p>また、この事業では当日使用する資料や当日の進行を、協力スタッフと職</p>

	<p>員が打ち合わせを行いながら、分担している。職員としてはスタッフの主体性や当事者意識を高めていくことを意識して、徐々にスタッフが担当する部分を増やしながら事業を運営している。人々をやる気にさせることや主体性・当事者意識を高めることをファシリテーション能力と言うが、ファシリテーションを通じて、人材を育成していくという役割も担っている。</p>
議長	<p>続いて、視察に行った委員から感想等をお願いしたい。</p>
委員	<p>まず感じたことは、長く続いている事業でほとんどの人が常連で、和気あいあいとした雰囲気だった。内容は地域包括支援センターから老後の住まいの種類の情報提供があり、そのほかにそれぞれの近況報告や歌、体操があって、盛り沢山だった。</p> <p>いきいきサロン世話人というサロンスタッフが6人くらいいた。若いスタッフもいて充実していると感じた。参加者の中には90歳の方や視覚障害の方もいた。視覚障害の方は付き添いの方をお願いして毎月来ているようであった。</p>
委員	<p>私達もサロンに参加している1人としてサロンの中で近況報告をした。内容は体操や歌があって休む暇が無いくらい充実していた。今月誕生日の参加者に誕生日プレゼントを渡すこともしていた。このようなサロンが公民館主催で行われていることが良かった。</p>
委員	<p>参加者がほとんど女性で、男性が少なかった。この企画を公民館に来てもらうのではなく、地域の自治会で自由に動くことができない人にも配慮して集まれる場があるのもいいかもしれない。今回のサロンは年齢を重ねても歩いて行ける方が参加をされていて、歩いていけない方やこのような場に行きにくい方をどのようにフォローしていくかというのも今後の課題かと思った。</p>
議長	<p>参加されていた高齢者は毎回楽しみにしていることが伝わってきた。今回の地域包括支援センターからの情報など、調べてもなかなか出てこないものもあり、そこに行かないと得られない情報があると感じた。そこから派生して、先ほどの委員の発言のように、自治会館、町内会館のような集会施設で自治会と一緒に高齢者の方たちを集めて今回のサロンのようなことができると良いと思った。</p> <p>それでは、昨年3月に社会教育委員会議でまとめた「公民館とまちづくりセンターの一元化についての意見書」を確認しながら視察をまとめたい。</p> <p>「1 公民館機能の充実」で「人がつながる仕掛けを」と意見をさせてい</p>

	<p>ただいき、「地域実態に即した、連続性のある、自由度の高い事業を実施することで、地域の人同士がつながる仕掛けづくりに取り組んで頂きたい。」と意見をさせていただいた。まさに現在一つ一つ積み重ねられている最中であると視察を通して感じた。</p> <p>「２ 職員の充実」ということで、本日の視察で職員の配置人数など説明いただいた。説明の中でセンター長から富岡まちづくりセンターでは職員がやることにダメと言わずに、どんどんやらせているという説明もあった。専門的知識が必要ということもあるかもしれないが、まちづくりセンターの中でそのようにして職員を育てているという姿勢も本日確認できた。</p> <p>「３ 社会教育の担保」ということで、前回の会議で公民館運営審議会に社会教育課長が委員として参加していると説明があり、まさに社会教育と公民館のつながりということで、意見書のかなりの部分を取り込んでいただいていると感じた。</p> <p>「４ 機能の拡充」の「自治会館、町内会館との関係性構築も」ということで、新所沢東まちづくりセンターの視察の感想にもあったが、ふれあいきいきサロンのようなものが公民館だけでなく、さらに地域へと展開されていくと良いのではと感じた。</p> <p>事務局から何かあるか。</p>
社会教育課長	<p>今回は２つのまちづくりセンターを視察いただいた。社会教育課としても、社会教育委員の皆様と引き続き公民館事業の把握に努め、いただいた意見は市民部にも共有していきたい。</p>
議長	<p>(２) 部活動の地域展開の状況</p> <p>議事２について、説明をお願いしたい。</p>
教育総務部次長	<p>始めに、部活動を地域展開していく意義として、将来にわたって子供たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保・充実していくため、中学校の部活動を、学校単位の活動から地域単位の活動へ、教員による指導から地域の様々な指導者による指導へ切り替えていき、持続可能なクラブ活動とするものである。</p> <p>次に、国の動きについて、文部科学省では、２０２３年度から２０２５年度までを「改革推進期間」とし、部活動改革の取組を進めており、地方自治体は期間内に休日の地域展開に着手する必要がある。さらに、文部科学省は２０２６年度から６年間、令和１３年度までを「改革実行期間」とし、原則、すべての学校部活動において地域展開の実現を目指している。</p> <p>次に、市の状況等について、こうした国の動きを踏まえ、所沢市におきま</p>

しても地域展開の取組を進めるため、令和5年度から「所沢市立中学校地域部活動検討委員会」を立ち上げ、児童生徒や保護者、教職員へのアンケートの実施や、他自治体の取組の視察を通じて、さまざまご意見をいただいた。

現状の部活動の課題としては、顧問の確保が難しくなっている状況、生徒数の減少とともに民間のクラブチームへの参加が増えたことなどにより、部員が集まりにくくなっている状況などがある。

こうした状況を踏まえ、現時点での方向性について、当面の間は合同部活動の推進や拠点校部活動の充実、外部指導者や部活動指導員の充実などにより、学校部活動が継続できるようサポートしていくとともに、その間に民間事業者や地域資源の活用を図るなどして、既存学校部活動とは異なる多種多様なクラブ活動が提供できるよう、認定地域クラブの制度設計を進めていく。

それでは、本市の具体的な取組について説明する。令和6年12月より、山口中学校の剣道部員と上山口中学校の剣道部員が月1回、山口中学校の体育館にて合同練習を開始し、顧問のほか地元の山口剣友会から指導者を派遣いただき、より質の高い練習を多くの部員で共有する活動を行っている。こちらの事業は地域展開の実証事業として進めており、もう1年が経過するところで、生徒や保護者、顧問の先生からも高い評価をいただいている。

次に本年10月5日に開催した「エンジョイ・チャレンジデイ」について、この事業は学校以外の場所で様々なスポーツや文化芸術活動に出会う場の提供や、将来的には部活動が社会教育的なクラブ活動へ変化していくことを周知・実感いただくことを目的に今年度から開始した。対象は中学生のほか、小学校4年生から6年生までを対象とした。当日の参加者は中学生が22名、小学生が86名、と想定していたよりも小学生の関心が高いことが分かった。実施した種目は、運動系がボウリング・バレエ・ラクロス・ダンス・テニス・ウォーキング・太極拳の7種目、文科系がフルート・茶道・フラワーアレンジメントの3種目、合計で10種目10団体に協力をいただいた。実施後には児童・生徒と保護者や協力いただいた団体に対してアンケートを行い、参加者の満足度は非常に高く、事業者や保護者からも良い取組と評価をいただいた。

「エンジョイ・チャレンジデイ」の課題として、参加者及び参加団体を増やしていく必要がある。このため、来年度の実施に当たっては開催時期の見直しや実施回数を充実、参加者や協力団体への情報発信の充実を図り、内容を充実させていく必要があると考えている。

最後に、この部活動の地域展開を進めていく際には、国や他の自治体の動向も見極めつつ、影響の大きい生徒や教員の意見なども踏まえ、慎重に進めていく必要があると考えている。



	<p>今後も、この社会教育委員会議において、情報提供させていただきたい。</p>
議長	<p>今回このテーマを取り上げるのが初めてである。まだまだわからないことがたくさんあるように感じる。</p> <p>何か意見・質問はあるか。</p>
委員	<p>エンジョイチャレンジについて、中学生22名、小学生86名が参加し、出会うという意味では意義があると感じた。このあと種目を続けていきたいとなった場合のフォローはどうなっているか。</p>
教育総務部次長	<p>この事業は1回限りの事業である。継続したい場合は実施団体に直接問い合わせをしていただく。</p>
議長	<p>カラーの資料にスポーツ活動に関してはスポーツ振興課、文化芸術活動に関しては学校教育課と所管が記載されている。私の娘は中学校の時に吹奏楽部に所属していた。その際に、外部指導者が演奏を教えていたが、顧問は学校の先生であった。</p>
教育総務部次長	<p>外部指導者の制度は以前からあったので、それも踏まえてこの制度が国で検討されたのかと思う。</p>
教育長	<p>外部指導者の制度は文化系だけでなく、スポーツ系の部活動でも以前からあった。</p>
委員	<p>私の知り合いに山口中と上山口中の剣道部の指導をしている人がいる。部活動に来ている子どもに不登校の子どもがいて、どういう風に接して良いのだろうかと話があった。その人は農業をやっていて時間的に余裕があるので山口中や上山口中で剣道を教えているが、自然と子どもの問題と関わることになる。教育的な部分で社会人の対応はどういう風に考えているか。あるいは指導者にどのように考えてもらっているか。</p>
教育総務部次長	<p>地域展開は国では社会教育という位置付けと言われている。子どもとの接し方については研修等を通じてある程度のレベルを担保していく必要があると国も考えているようである。</p>
委員	<p>外部指導者は報酬をもらってやるのか、それともボランティアとして無報酬でやるのかを娘達と話したことがある。ボランティアの場合は、コンプラ</p>

教育総務部次長	<p>イアンスのこととか強く言えないのではないかと。報酬をもらっていた場合は、要望を伝えることができるのではないかと。ボランティア頼みでやっていると大変になる。</p> <p>現状そのような課題は認識している。結論は出ていないが、イメージ的にはスイミングクラブと同じような形で、ボランティアではなく、ある程度受益者負担をすることになるのではないかと。費用を抑えないと広く生徒は募集できないので、そのバランスをどうとっていくか課題である。</p>
委員	<p>今回の部活動地域展開実証事業は、参加費は無料ということになっていて、こういうスポーツがあるということを知るという意味で良いと思う。ただ、部活動地域展開がスイミングスクールというイメージだと、お金を払って習いに行くということになるが、どうなのか。みんなに平等に教育を受けられる権利があり、高校の費用を無償化するという話も出ている中で、なかなかこの部活動地域展開とイメージがつかない。結局お金を出さないといけないのであれば、お金がある子は部活動を出来て、お金がない子は部活動を出来なくて、その差は縮まらないように感じる。今まで部活動を学校でやる場合はあまりお金を気にしなくてよかったので、これはもっと考えなくてはいけない部分だと感じた。</p>
教育長	<p>本来ならお金がかかってしまうところ、できるだけお金がかからないようにということを国も言っているが、これから学校の部活動を地域に展開する上で当然発生する課題であり、課題の一つとして十分認識している。地域へ移行していくのであれば子どもたちにとっての活動が充実していかなければならない。全面的に移行は難しいから土日だけから始めようということだが、平日と土日で指導者や活動場所が違ったり移動の問題などは子どもたちの負担にならないか、何か起きた時に責任はどうなるか、保険はどうするか、そのような課題に今まさに取り組み始めているところである。国が方向性や期限を出しているがなかなか進んでいない。なぜ進まないかという人や予算、安全面など構築途中の段階であり、各自治体で進めたくても進められない状況である。進んでいる先行事例は国の委託などを受けて実証事業をしている自治体で、自治体によっても状況がかなり違う。埼玉の白岡市は特例を受けて、国の補助を受けて進めている。白岡市は中学校4校で、それぞれ自転車で移動しても10分もかからない。所沢では模索しながらやっている状況である。今後の状況は社会教育委員会でも伝えていくので、皆様から色々な意見をいただき、より良いものにしていきたい。</p>

議長	<p>有償や無償というところが気になるのはわかるが、生計を成り立たせるほどの謝金ではないと思う。今後もこのテーマを取り上げていきたい。</p>
委員	<p>先ほど部活動の地域展開は社会教育だと説明があった。学校教育は平等、無償という形で成り立たせてきたが、社会教育はお金を取っても大丈夫という理解であり、部活動の地域展開を社会教育だと言い過ぎるのは危険だと思う。これは学校教育と社会教育の大きな問題であるので、所沢市の教育の中で話題にしていけないといけないのではないかと思います。引き続き教育委員会から情報をいただきたい。</p>
議長	<p>引き続き情報提供をいただきたい。</p> <p>(4) その他</p> <p>委員より2点報告し、日頃の委員の活動報告をした。</p> <p>①第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会</p> <p>②入間地区社会教育委員研修会</p>
委員	<p>(日頃の活動報告 1人目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所沢市連合婦人会は昭和25年に創立され、75年を迎えた。</li> <li>・毎年、所沢まつりの民謡流しに出演している。今年は、テレビ局より依頼があり、民謡流しを行うまでの練習や裏方の苦労に関する取材を受け、テレビ放映もされた。</li> <li>・毎年、所沢市民フェスティバルでは焼き団子の販売をしている。</li> <li>・北方領土返還運動にも関わりを持ち、歯舞の早煮昆布を購入し販売している。</li> <li>・現在は連合婦人会の主な年代は70代であり、50～60代の方の参加は少ないが、様々な活動に誇りを持って活動している。</li> </ul>
委員	<p>(日頃の活動報告 2人目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋草学園短期大学は保育者・図書館司書・医療事務に関する資格が取れる学科がある。</li> <li>・地域に根差した学校の在り方、地域との連携について学内全体で検討しながら実践活動の場を作ってきた。</li> <li>・学生が自分事として地域のことを考え、地域づくりをする1人であるという意識を持った社会人になれるように育てていかなければと考えている。</li> <li>・週に1回、親子8組が参加できる子育て支援ルームを大学に開設している。学生も音楽や運動あそびの授業発表やハロウィン・クリスマスのワークショ</li> </ul>

議長	<p>ップもしている。私は子育て支援の授業を担当していて、その中でパネルシアターを学生が作り、それを発表するということを3回ほど実施した。</p> <p>それでは以上で議事その他を終了とする。</p> <p>【4 その他】</p> <p>・文化財保護課説明</p> <p>第16回伝統芸能発表会</p> <p>令和8年2月15日にミューズマーキーホールで開催する。今回は、8年ぶりに所沢小学校お囃子クラブが参加する。映像記録は社会教育委員の難波委員にお願いをしている。</p> <p>・所沢図書館説明</p> <p>①令和7年度図書館要覧</p> <p>令和6年度の図書館事業をまとめた冊子をお渡しした。</p> <p>②航空資料コーナーの拡大オープン</p> <p>航空史研究家、田中昭重（たなかてるしげ）氏が所蔵されていた航空資料、図書約3,000冊、雑誌5,000冊、航空機模型約270機の寄贈を受けた。11月8日より本館3階に新たな航空資料コーナーを開設した。</p> <p>【5 閉会】</p> <p>日頃から柳瀬荘という東京国立博物館の施設を管理している。今年は、この柳瀬荘の元持ち主である電力王や電力の鬼と呼ばれた松永安左エ門の生誕150周年ということで、9月に長崎の壱岐で講演会をした。せっかくの機会だったので、講演会では所沢市のPRもさせていただいた。</p> <p style="text-align: right;">《以上で終了》</p>
委員	